

公民館報 まつもと

発行
2021
7/30

- 問い合わせ 中央公民館
TEL 32-1132 FAX 37-1153
- 編集 公民館報編集委員会
- 印刷 株式会社 プラルト

シリーズ 受け継ぎ伝える松本のたから 56

市街地でホタルが舞う!!

大門沢川付近では、ホタルの生息に関心を持つ住民が多く
河川の浄化に力を注いでいる
きれいな水辺をこの先も維持したい



てまり音楽隊がお出迎え(例年の様子)

感染対策をとりながら広く発表できる手段として、30日のステージ発表は動画投稿サイトのユー

新しい試み

松本市公民館活動者を中心に、多彩な発表の場となっています。

コロナ禍での開催

第21回松本手まり時計まつり(以下まつり)は5月29・30日、Mウイングで行われました。第43回松本市公民館活動発表会も一緒に行われ、各団体の絵画や手工芸などを展

まつりの歩み

まつりは平成11年から、Mウイング管理組合などによる松本手まり時計まつり実行委員会によって運営されています。主要な催しである松本市公民館活動発表会も当初から一

新たな形の 手まり時計まつり

第21回松本手まり時計まつりは「コロナ禍で従来通りの活動発表が難しい中、一段の成長を予感させる開催となりました。今年のテーマは「共生」21回目の新たな一歩」です。

示。歌やダンスに津軽三味線などのステージ部門は、インターネットでのライブ配信も新たに取り入れました。

チューブでライブ配信されました。機材も実行委員会が自費で購入し、今後のあり方も見えます。

問題に立ち向かう中で、一段の成長と新たな展開にも繋がりました。それは今回ステージ発表した団体の中にも見受けられます。中高生によるジャズバンド「ミュージックトイズ」もその一つ。大人数の編成でジャズを演奏するビッグバンドという形式です。恒常的なメンバーの減少や資金不足に加えて今回のコロナ禍、昨年は特に発表の場も限られました。バンドマスターの高校2年生増田結月さんは「SNSの発信と動画配信で、より広い層にアプローチが可能となった。インターネットで資金を募るクラウド

令和3年度 新任公民館職員

- 公民館長
 - 中央 高橋 伸光
 - 安原 藤野 一男
 - 神林 丸山 勝久
 - 笹賀 山田 賢司
 - 岡田 深井久仁彦
- 公民館主事
 - 中央 土屋 浩昭
 - 中央 小岩井一樹
 - 中央 伊藤 雄太
 - 中央 宮下明日香
 - 中央 大和 健司

- 第一 遠藤 彰
- 東部 三枝 彰
- 寿台 大津 彰
- 入山 吉田 彰
- 里山 吉田 彰
- 今井 宮澤 彰
- 内田 石原 彰
- 波田 奥原 彰
- 第一 山内 敦子
- 第二 井上真由巴
- 第三 上條 恒嗣
- 東部 小澤佐智浩
- 城部 尾日向智子
- 城部 尾日向智子
- 中央 澤柳 秀子
- 安原 大和 靖
- 城部 浅田 達夫
- 白板 鶴木 忍
- 田川 神戸 啓次
- 庄内 大野田彰孝
- 鎌田 南雲多樂子

- 令和3年度 館報全市版編集委員
- 松南村口 淳子
- 島内川上 弘
- 中山石橋 広
- 島立上條 志子
- 新立山口 茂
- 和村山口 茂
- 神林藤澤 良彦
- 笹賀窪田 守
- 芳川村田 正幸
- 寿川村田 貴明
- 松原江藤 弘子
- 曾根原 豊

- 岡田 小林 修
- 入山 大澤 智
- 里山 浅海 朗
- 今井 中村 洋
- 内田 酒井 洋
- 本郷 杉江 洋
- 四賀 松村 京子
- 安曇 赤穂 武美
- 奈川 真関 健
- 梓川 森 鉄雄
- 波田 古田 豊樹
- 大学生 工藤 太陽

将来への展望

厳しい状況が足元を見直す機会となり、今回はその解決



ファンディングでは、予定以上の金額が集まり、楽器も新しくできそう」と話しました。

策の一つとしてインターネットが活用されました。松本市もインターネットを活用して生活の利便性を向上させる「DX」(注)を推進し始めたところ。まつりの糸井健至実行委員長は「皆の柔軟で豊かな発想により開催に繋がった。来年以降も動画配信をしていく」また、ミュージックトイズを指導する後藤浩輔さんは「今回のことは改めて活動を見直すきっかけとなった。まだまだ皆でアイデアを出していききたい」と将来への展望を語りました。



松本手まり時計まつり実行委員会2021 YouTube公式チャンネル

視点

今年度の公民館報から若者の視点を取り込んだ記事を掲載します。

若者から見た松本。そこで何を考えどう動こうとしているか。より良い松本にしようとして活動する若者はたくさんいます。彼らの存在を知ってもらい、この記事が若者と地域をつなぐかけはしになることを目指します。

①若者と地域の「つながり」松本市地域づくりコースサポート担当

若者がいきいきと活躍できる松本市に

今年の四月から松本市地域づくりコースサポート担当

が新設されました。松本の学生と松本市の共同で発足した「松本をもっとよくしようプロジェクト」など若者の活動を支援しています。

全国的に若者の地域参加は減少しています。なぜなら大学内や職場のみで関係性が完結してしまうからです。若者には、地域でさまざまな人と関わり、自身の興味関心のアンテナを高く持つことが求められています。それが地域に目を向けるきっかけとなるでしょう。若者と地域の「つながり」は、松本の未来をひらく原動力です。



写真でつづるまつもとの今昔⑤⑤

～ SLが停車中の村井駅 ～



(撮影：1960年代後半)

篠ノ井線の松本～塩尻間が延伸開業した1902 (M35) 年12月15日、村井駅が開業した。1965 (S40) 年5月20日南松本～塩尻間が電化され、1970 (S45) 年には篠ノ井線から蒸気機関車が引退した。



(撮影：2020.7.1)

田川高校、松本国際高校、松本医療センター等や住宅も増加して、村井駅も乗降客は増加している。開業当初からの駅舎は120年が経過して狭くなったので、3階建ての半橋上駅舎に建て替えが計画されている。

わがまち自慢(内田地区)

自然に帰ってきた、ホタルの棲む自然

日が暮れ始め、眼下に街のあたりが広がってきました。カエルが合唱する田んぼ、その中を流れる川に、二つ三つと小さな光が舞い始めます。6月25日(金)午後7時30分よりホタル観察会を行いました。参加者は高齢者から親子まで35名。塩沢川ぞいを、ホタルを刺激しないよう観察しながら歩きました。

この観察会は平成25年から行われています。きっかけは、区内にホタルが帰ってきていることを見つけた、松本ホテル学会からの働きかけでした。丸山明良公民館長は「自然にホタルが帰ってきたという事は、河川

の水質が良くなってきたという事。環境のことは難しいですが、私たちが良い環境に住んでいる事は間違いないですね」と話しました。水質浄化や農薬使用量など、生活と自然とのバランスが取れている地区であると言えるでしょう。

内田地区公民館では、8月にも水生昆虫観察会を企画しています。



参加者に偶然とまりました

おこひる

もうひとがんばり。健康のために散歩を始めた。東に美ヶ原、西に北アルプスの雄大な姿を見ながら歩く薄川のコースが私

のお気に入り。今日はリサイクルショップで見つけたランニングシューズの初おろし。ちよつと気分がいい▼階段を降りて川べりを歩く。つい最近まで甘い香りをただよわせていたアカシアの白くてかわいらしい花が散り、葉の緑が濃くなってきたことを感じる。▼野鳥もたくさん見かける。仲良く泳いでいる2羽のカモ。よく見ると泳いでいるというよりは流されている。1級河川である薄川の流れは速い。最近ツバメをよく見かけるようになった。ひらりと急旋回しながら自由自在に空を飛ぶ姿に思わず見とれてしまう▼川べりから階段を上がり道路に出ると、忙しそうに走り去る車や人の姿が見えて現実に戻る。衣替えだろう。赤信号で待つ高校生の制服姿が爽やかで眩しく感じられる。今日も気持ちよく歩けた。さあ、あの橋までもうひとがんばりしよう。

歴史探訪 探ろう松本 23

歴史と文化薫る活力ある地区

島内地区

地区の概要

島内地区は昭和29年、松本市と合併、令和3年7月1日現在、5373世帯、人口12526人、20町会で構成されています。城山丘陵地の麓と、奈良井川、梓川に囲まれた平野部の二地形からなっています。

歴史と文化

かつては「嶋之内」と呼ばれていた同地区。犬甘城いぬあまいしろと平



瀬城があり、江戸時代には大町・糸魚川方面への物資の出入り口として重要な位置にあり、幾筋もの街道が通る交通の要所でした。

また、毎年4月に行われる「鳥居火」は、市の重要無形民俗文化財に指定され、3町会によって行われています。

多くの史跡や文化財のほか、市音楽文化ホールを擁する、歴史と文化薫る地区です。

住民力の結集

住民自らが立ち上げた活動が多いのも、この地区の特徴です。平成10年に始まった島内農業文庫運営委員会は、平成13年に島内図書館ができるまで、地域の図書館としての役目を果たし、現在は、生涯学習の場となっています。

3世代交流会「おらんちdeランチ」は、平成30年に始まり、高齢者有志が運営、毎月一回開催して、子育て世代が親子連れで参加し、勉強やものづくりをして楽しんでいます。

令和2年には、「平瀬古城会」が発足し、文化遺産の維持に

努めるほか、地元の小中学生に歴史を学ぶ講座などを開いています。



3世代交流会 おらんちdeランチ

地区の課題

高齢者の移動手段に問題があり、その解決策として「島内川東乗合タクシー」の運行を始めました。

昨年7月の豪雨で浸水被害にあった同地区は、今年度は地域づくりセンター強化のモデル地区に指定され、防災に取り組んでいます。

コロナ禍でも工夫をして行事を行い、昨年度は、それまで公民館、福祉ひろば、図書館が別々に運営していた祭りを統一し「第1回島内文化ふれあいまつり」を開きました。20町会が力を合わせて活動している活力ある地区です。

松本平の野鳥たち



サンコウチョウ (撮影:2021.6.16 松本市)

日本へは夏鳥として渡来、平地から低い山の薄暗い林を好む。大きさはスズメくらい。目の周りとかちばしはコバルト色。最大の特徴は、成鳥オスの長い尾羽で体の3倍近い長さ。鳴き声が「ツキ、ヒ、ホシ、ホイホイイ」と聞こえるので「三光鳥」と名前がつけられた。

まつもと散歩

「今日は体育祭だったんです」
さまざまな制約の中での高校生活ですが
その明るい笑顔があればきっと大丈夫!



(撮影:2021.6.21 花時計公園)